

AJELC Newsletter

The Association for Japanese and English Language and Culture

第69号 2026年3月31日

【お詫び】 AJELC Newsletter No.69 は、本来、2026年3月31日発行の予定でしたが、諸事情により、お届けが5か月近く遅れてしまいました。心よりお詫び申し上げます。

---目 次---				
巻頭言	馬場 千秋	1	第90回定例研究会報告	山崎 千春 7
第20回年次大会報告	水澤 祐美子	2		坪野 圭介 8
第89回定例研究会報告	マクラレン温子	4	第91回定例研究会報告	小田島 恒志 10
	拝田 清	6		小池 生夫 11
第90回定例研究会報告	小澤 史緒	7	事務局だより	14

AJELC 創立 20 年を経て

馬場 千秋

2005年6月に「日英言語文化研究会」として創立され、2008年4月より現在の「日英言語文化学会」として本学会は活動をしている。今年、21年目を迎えることとなり、改めて Newsletter 創刊号から眺めてみた。当時の役員リストで現在も残っているのは参与の村田年先生、会員の加藤忠明先生、そして私の3名のみである。元々、本学会は故奥津文夫先生が和洋女子大学を定年退職させるのを機に、『日英語の比較—発想・背景・文化』（奥津文夫教授古稀記念論集）を三修社より出版するために編集委員会として集まっていたメンバーが発起人となって研究会を立ち上げた。その発起人が、奥津文夫先生、元会長の森住衛先生、村田年先生、加藤忠明先生、池内正直先生と私である。皆さんがまだ大学教員として現役で、私自身も大学の非常勤講師として、専任職を探している最中であつた。

この20年間のAJELCを見てきているが、はじめの10年くらいは例会に参加された方の3分の2は懇親会にそのまま参加し、中には懇親会から参加される方もいた、そういう時代であつた。会員もJACETの理事経験者の先生方が多く、「ミニJACET」と呼ばれる先生もおられた。学会運営も小回りが利く形で行っていたが、その後、役員数の増加という学会内

の変化や COVID-19 パンデミックにより対面での学会ができないというかつて経験したことのない事態にも見舞われた。その後、なかなか対面でも参加者が集まらないことも多くなってきた。また、会員数の減少や、元からであるが、若い会員が少ないという本学会の弱点もあり、改めて学会運営を考える時期に来ている気がする。私自身も発起人という立場だけではなく、一緒に発起人となった先生方がかつて活躍された JACET において副会長という立場でもあるので、大きな学会である JACET での経験をさらに本学会でも活かせればと思う。

学会が乱立されていることもあるし、少子化により大学院生が減少していることもあり、複数の老舗の学会で会員がどんどん減ってきていて、弱体化しているという現状がある。そのような中で、日英の言語、文化、文学、教育という複数の専門の研究者が集うことができるという利点を活かしていくことが AJELC の存在意義になるのだと考える。その一環として、故奥津文夫先生の追悼論文集の刊行を現在、企画している。奥津先生に捧げると同時に、会員諸氏の業績となる貴重な機会となればよいと考えている。

(帝京科学大学教授)

第 20 回年次大会報告

2025 年 6 月 14 日 (土) 14:30 – 17:00

於：成蹊大学

名誉会長基調講演

日英のことばと文化(5)―嘘 lie と馬鹿 fool

奥津 文夫

* 「嘘」と「馬鹿」は日本人の生活と文化の中で重要な位置を占めることば

―嘘は「面白い話、元来人を笑わせ幸せにするためにも技術だった」、lie は「人をだます言葉」―嘘の根底には「察しと思いやりの文化」「省略の美学」を基盤とする情緒的日本語表現の魅力と難しさがある。 cf. 英語の「たわいのない嘘」は”fib”

「嘘つき!」「嘘つくな」は英語なら You must be joking. You are kidding. などとなる。

(昔は欧米では liar と言われたら決闘を申し込むほどであった)

欧米文化の中では truth (真実、真理) に高い価値が置かれる。

Truth is always strongest. Truth is mighty and prevail.

Truth has no need of rhetoric. (「信言は美ならず」に相当)

Truth never shames the master. Truth shames the devil.

日本には「真実」「真理」についてのことわざはなく、truth に相当するものが「道理」(物事の筋道、reason)になるのである。

「日本人はとても正直な国民であるが verbal honesty がない」と言われる。

「お世辞」や「極端な謙遜」も「嘘」である場合が多い。

→「嘘も三日は嬉しい」「嘘も方便」

*嘘と虚偽は異なる。

民族学者の柳田国男——「ウソのような歴史のある佳言葉はもっと大切に保存しておきたい」「幼児や子供のウソは『いたいけな知恵の冒険』であり、ウソは想像力の源泉であり、その子は想像力の豊かな文章家になるかもしれない」

ことわざも多い。「嘘と坊主の頭はいったことがない」「嘘と牡丹餅はつくものではない」

「嘘も誠も話の手管」「嘘も身の芸」「嘘は日本の宝」「嘘をつかねば仏になれぬ」

*中条きよしのヒット曲「うそ」——「女がほろりとくるような優しい嘘のうまい人」
日本の教師も生徒に「最近英語の発音がうまくなったね」などとほめてやる必要がある。嘘でもよい、生徒がほろりとくるような「優しい嘘」でなければならない。

*「馬鹿」は愛情表現、fool は「ふいご→頭が空っぽの人」(強い侮辱の意味を含む)

「馬鹿」の語源に関する一説「破家＝家産を潰す」

「馬鹿」は、その人間の知能の低さを意味する場合もあるが、多くの場合その人の判断力や言動に対しての評価が中心となるものであり、いかに賢い人間でも結果として馬鹿になったり、馬鹿なことをしてしまうことがあるのである。

*常識のレベルを越えていることを示す言葉

「馬鹿正直、馬鹿丁寧、馬鹿力、親馬鹿、釣りバカ、馬鹿にうまくいったね」

＊主に女性が使う言葉で、相手の優しさや一途な思いからのものでむしろ好意的に受け取られる言葉——「馬鹿ねえ、お馬鹿さんね、馬鹿馬鹿馬鹿」

＊日本の男女間では「馬鹿」は愛情表現になることも多い。

→三味線漫談家の柳家三亀松のトレードマーク「いや〜ん、ばか〜ん」

＊＊スタンフォード大学の日本文学科教授を務めた E.G.Seidensticker 氏でも川端康成の『雪国』の中で駒子に島村が言った「火みたいじゃないか、馬鹿だね」という言葉に関して次のように書いている。

——「馬鹿だね」は省略した。英語ではこういうことは言わないからだ。これを文字通り訳して、”You are silly.”とか”Don’t be silly.”とするのは、少し物足りないし、軽すぎるような気もするし、また何となく馬鹿げてひびく」——

日本語に精通したサイデンステッカー氏でも日本人の使う「馬鹿」という言葉のニュアンスを完全に理解するのは難しいかと思う。

（余談）私が女子大生たちに言っていたこと。一付き合い始めた「男性に「キスしてもいい？」と言われた時には、どう答えるのが一番良いでしょうか。「いいわよ」と答えれば安っぽい女に見られてしまうかもしれないし、「いやよ」と言えば嫌われてしまうかもしれない。私の答えは？

——「察しと思いやり」「省略の美学」を基盤とする日本語表現の魅力と難しさ

（和洋女子大学名誉教授）

講演

Halliday の選択体系機能言語学とその応用 —文化と状況にもとづいた意味づくりの視点から—

水澤 祐美子

M. A. K. Halliday が提唱した選択体系機能言語学 (Systemic Functional Linguistics, 以下 SFL) について、言語を社会における意味づくりの資源として捉える理論的な枠組みを概説し、アカデミック・ライティング、ビジネス文書、画像や空間、生成 AI への応用例を紹介した。

SFL の「選択体系」とは、話し手・書き手が意味を表すための選択肢の体系を指し、「機能」とは、言語が社会的文脈の中で果たす意味の働きを指す。文化のコンテキストと状況のコンテキストを背景として、言語は、経験を構成する観念構成的機能、人間関係を形づくる

対人的機能、情報をまとまりのあるメッセージとして組織するテキスト形成的機能という 3 つのメタ機能を同時に具現すると考える。

教育への応用では、話し言葉と書き言葉の違いを、語彙密度と文法的複雑性の観点から示した。書き言葉では、名詞化によって情報が凝縮される一方、話し言葉では節を連ねて意味を展開する傾向がある。さらに、発話や作文を「いま・ここ」の行為から一般化へと連続的に捉える *Rhetorical Unit Analysis* と、感情 (Affect)、人の評価 (Judgement)、事物の評価 (Appreciation) から書き手の立場を捉える *Appraisal Theory* の枠組みを紹介した。これらは、学習者がどのように経験を組織し、読み手との関係を築き、評価を言語化しているかを具体的に捉える手がかりとなる。

ビジネス文書については、ジャンルを「段階をもち、目的に方向づけられた社会的過程」と捉え、日本とオーストラリアのオフィスで使用された依頼文を例に、開始、状況説明、依頼の正当化、指示、結びなどの各要素がどのような語彙文法をもち、どのように配列されるかを検討した。日本語と英語では、依頼を対人的に調整する方法と、必要事項を観念構成的に提示する方法に違いが見られ、ジャンルの構造も文化と状況のコンテキストから切り離しては捉えられないことを示した。

SFL は言語だけでなく、画像や空間にも応用できる。画像への応用例として、ポスターと絵本を取り上げた。まず、アンクル・サムの徴兵ポスターでは、人物像、視線と指さし、画面中央の配置が、それぞれ経験の表象、見る者への働きかけ、情報の組織化に関わることを示した。次に、異人種間の友情の確立を描いた絵本 *The Other Side* では、フェンスや人物の上下配置、視線、行為の描き方から、黒人と白人の間の不均衡な関係性が読み取れることを論じた。また、SFL の空間への応用を示す一例として、日本庭園とヴェルサイユ宮殿の庭園を対照させ、建築や庭園の構成も、自然との関わり方を表す文化的な記号となることを論じた。言葉、画像、視線、色彩、空間配置など複数の記号資源が協働して意味をつくるという視点は、現代の多様な意味づくりを読み解くうえで有効である。

最後に、生成 AI への応用として、蛇の生態を尋ねる 3 つのプロンプトを比較した。単に説明を求める場合、小学生が理科の先生に提出する 200 字のレポートを求める場合、大学生が一般教養科目の科学を担当する教授に提出する 200 字のレポートを求める場合では、回答の語彙、説明の範囲、専門性が変化した。これは、Field、Tenor、Mode に関する情報をプロンプトに入力することが、目的と読み手、媒体に合った出力を得るために有効であることを示している。駆け足ではあったが、以上の例を通して、SFL が、文化と状況のコンテキストのもとで、言語、画像、空間といった多様な記号資源による意味づくりを捉える枠組みであること、また、そのレジスターの概念が、生成 AI から目的に応じた出力を得るうえで有効であることを示し、SFL の「応用可能な言語学 (applied linguistics)」としての可能性を論じた。

(成城大学准教授)

講 演**充実した人生を過ごすための語学学習****加藤 忠明**

学歴) 市川小学校入学卒業、一橋中学校入学卒業、慶応義塾志木高等学校入学卒業、慶応義塾大学経済学部入学経済学部卒業経済学士、同教育20単位取得。米国コロンビア大学大学院英語教授法修士 M.A.

ハワイ大学にて平和学3単位取得

専門) ビジネス英語、英語教授法

関心事項) 言葉を通じての学際的学習

職務歴) 大学時代に、1964年東京五輪組織委員会英語通訳(大学1年次、通訳として最年少の一人)、東京国際見本市(大学2年次)、東京国際見本市オーストラリア大使館展示英語通訳、Linguist 翻訳会社ジェネラルマネージャーとして科学技術翻訳、新卒として大手建設機械メーカー大阪工場事務機械課、本社海外事業本部インド、キューバ直接貿易、コンピュータ関連フランス語和訳、キューバ人16名の鋳物工場同時スペイン語通訳、メキシコ工場統括、国際事業管理部計20年、アメリカ大学連盟英語インストラクター1年、東京外語専門学校2年、神田外語学院夜間2年英語インストラクターを勤め、江戸川女子短期大学専任講師として入り、一方、2年前より、入学した日本のコロンビア大学大学院英語教授法修士をその年米国ニューヨーク州の本校より正式に授与され、江戸川短期大学、江戸川大学で、助教授、教授、特任教授を経て、退職後、同名誉教授となった。その間、本務校以外に、杏林大学で6年、慶応義塾大学経済学部5年、通信教育部10年、東京電機大学30年、和洋女子大学で28年英語教師を勤めた。運用言語には、レベル差があるが、母語としての日本語、外国語としての英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、学習した言語としては他に、ギリシャ語、ロシア語、イタリア語、ドイツ語、中国語等があり、多言語習得に関心がある。大学退職後、東京都庁2020年五輪ガイド2か月、在住の市川社会福祉協議会のコロナ関連貸付業務を1年5か月市川市役所行徳支所で勤める。現在、ボランティアとして、市川市で外国語同好会を主催し、時事英語や、多言語を使用、運用する。京都の国際交流にも参画している。現在、市川市国際交流協会 I.I.A. 会員、京都市国際交流協会会員

スポーツ) 水泳

趣味) 多言語によるカラオケ

(江戸川大学名誉教授)

第 89 回定例研究会報告

2025 年 9 月 13 日（土）14:30 – 17:00

オンライン（Zoom）

講 演

Fair dinkum オーストラリア人気質と、戦後の日豪友好関係について

マクラレン 温子

オーストラリアには、Fair dinkum というスラング、あの人は、良い人だ、信頼できる人物だと言いつづける言葉がある。この dinkum は、本来イギリス北部のランカシャー州の方言から、生まれた 仕事、という意味で、オーストラリアに渡り、それを足して Fair dinkum という表現が、誕生。ちゃんと働く人という意味になった。

もう一つのオーストラリア気質を表現している物には、オーストラリアの第二の国家ともいわれる、Waltzing Mathilda というフォークソングがある。クリスティーナマクファーソンという人が、スコットランドの行進曲 Thou Bonnie Wood of Craigielea の音楽のメロデーに歌詞をつけたものである。この歌は、オーストラリア建国の歴史や開拓精神、オーストラリア精神を象徴する歌として、“オーストラリアフェア”という国家に次いで、第二の国歌と言われ、この歌は、フォーク調、行進曲、バラード、何にでも向く歌、としても、多くの人々に愛されている。

多くのオーストラリア人の気質が、どのように育まれたか、というバックグラウンドは、この建国の歴史を振り返ると、イギリスから、キャプテンジャームス・クックが、やって来てその後、イギリスの流刑者の人達の渡豪、ゴールドラッシュ、そして、国内の対立する二つのタイプの人達の存在の流れの中で、この歌の内容は、反体制の流浪のスワッグマン、放浪の労働者が、流浪しているとき、ヤギを盗んだら、警察に捕まりそうになり、捕まるぐらいなら、死ぬと池に飛び込み、亡くなった、その池の傍を通るとこのスワッグマンの幽霊が時々出てくる、という内容で、コミカルながら、オーストラリア人の反体制精神を伝えていて、国家の“オーストラリアフェア”という歌に次いで、第二の国家としても、皆に愛されている歌である。（参照：クリスのオージースラング Vol 5 メルボルン Net. Chris Nicholls 2019）これらのフェアデンカンという言葉や、皆に愛されているフォークソングに代表されるオーストラリア人の優しい気取らない気質、気楽なイージーゴーイングな態度、それは、この国の広々とした自然や、一年中過ごしやすい恵まれた気候からも、生まれて来たのではないかと思う。その温かい一般の多くのオーストラリア人の性格が代表されるのは、リズモア出身の

故トニーグリーン神父や、その弟、ポールグリーン神父の考え方、又、彼らの行動でもある。リズモア出身の故トニーグリーン神父とポールグリーン神父は、戦後、日本に渡り、その涙ぐましい日豪和解の尽力と日本人への愛情の精神で、日豪和解への道を切り開かれた。又、そのきっかけを作られたのは、やはり、リズモア出身のマースデン神父の寛容な日本人への愛情など、オーストラリアの雄大な自然環境、恵まれた温暖な気候の中で、このような寛容な性格が、生まれ出された気がする。

勿論、どの国にも、良い人も悪い人も、存在するし、負の歴史も存在する。オーストラリアでも、原住民が長く住み続けた国にヨーロッパから、白人達が、やって来て、侵略、白人主義支配の歴史もある。ドイツもアメリカでも同じような歴史があるが、その罪を認めている、学校でもきちんと教えられているが、日本の歴史教育では事実を正しく教えていない。

そして、現在でも多くの日本人には、戦争の責任について、理解できていない気がする。私達日本人は、第2次世界大戦についての罪の認識が、曖昧であり、実際には、日本の国が、ハワイのパールハーバーを奇襲攻撃し、アメリカと、戦争状態に突入したこと、これは、今のロシアのプーチンがウクライナにしているのと同じ事をしているに変わりない。しかも、そのことを、正当化して、聖戦と名乗り、その後も、韓国、中国と勝手に侵略していき、満州国などという日本の傀儡国まで、作っている。この時代の日本人は、これが、正しい事だと、教えられ、国から完全にブレインウォッシュされていた気がする。そして、太平洋戦争は、その後も、聖戦と名付け、さらに、東南アジアの国々までも侵略。オーストラリア人は、日本には、何もしていないのにもかかわらず、日本軍空軍は、パールハーバー侵略の何倍ものスケールで、オーストラリアのダーウインの街を空襲、街を壊滅させている。”愛の鉄道”の映画で、実在のニュース場面からのその場面を見れば、誰でも、大きなショックを受けるだろう。

さらに、日本軍は、オーストラリアの町々を海からも攻め、人々を恐怖に陥れる。その歴史の事実を日本の学校教育では、“全く教えていない”。とは言え、千葉茂樹監督夫妻が、制作された”愛の鉄道”という映画は、これらの事実を伝えている映画ではあるが、決して、日本人を陥れる映画の内容ではない。戦争は、その国のリーダーが悪いのであり、軍国主義が悪いので、一般の人々の罪ではないという信念で、貫かれている。リズモア出身の故トニーグリーン神父とその弟、ポールグリーン神父の生涯を描いたセミドキュメンタリー映画”愛の鉄道”は、實に感動的な内容であり、現在のオーストラリアが、こんなにも親日的になったのは、彼らのような人々のおかげであることを深く理解できる内容である。

その他、私自身の 50 年以上に渡るオーストラリアでの生活や、大学生活での経験、時折々に起こった事、又、多くの巡り会った人々を通して、感じた事や考えた事を実際の画面でもご覧頂きながら、オーストラリアと日本の友好と和解の関係や、人々の考えなどもご紹介しようと思う。

(Adjunct Professional Officer, Southern Cross University)

研究発表**「なぜ」に答える文法教育の試み
—『be to 用法』＜可能＞と『(ら)れる』＜可能＞—****拝田 清**

「既知から未知へ」というごく基本的な教育手法がある。英文法を教える際に、「日本語でも同じように〇〇というのがあるよね」といった話をすると、心なしか生徒・学生も得心してくれる。具体的には、準法助動詞として扱われることもある「be to＋不定詞」（以下、「be to 用法」）の＜可能＞を「ふつう否定文で、受動態の不定詞が続く」（江川 1991, 他）と説明しつつ、「受身の形で＜可能＞の意味が出てくるのは、日本語の助動詞『(ら)れる』も同じだね」などと補足する。これには、母語の文法知識を利用し外国語の文法を理解しやすくする（既知から未知へ）だけでなく、外国語の文法知識が母語の文法理解を深めてくれる（相対化による深化）という副次的効果も期待できる。

しかしながら、このような指導方法がいつも上手く行くとは限らない。英文法と日本語文法〔国文法〕に部分的な非対称性が存在するからだ。たとえば、「速く走る/run fast」の「速く/fast」の品詞は日本語では形容詞（連用形）で、英語では副詞となるなどだ。

さらに、一般的な文法指導においては、日英語を問わず、言語事実（現象）の説明をし、規則として整理はするけれど、「なぜそうなるのか」については、ほとんど説明がなされていないようだ。たとえば、be to 用法（予定・運命・可能・意志・命令など）についても「(ら)れる」（自発・受身・可能・尊敬）についても、1つの形式に複数の意味解釈が可能であることは説明されても、なぜ多義的な解釈ができるのかについては、説明がなされている教科書や文法書の類は、管見ではほとんど見当たらない。

本研究は、be to 用法の＜可能＞と助動詞「(ら)れる」の＜可能＞の類似性をきっかけとして、両文法項目を「なぜ」に答える形で説明する方法を検討するものである。今回は助動詞「(ら)れる」に焦点を当て、先行研究を瞥見し、かつ、「(ら)れる」の用例を収集・分析し、「なぜ1つの形式に複数の意味解釈が可能であるのか」について解答を試みる。

（和洋女子大学教授）

第 90 回定例研究会報告

2025 年 12 月 13 日（土）14:30 – 17:00

於：成蹊大学 と Zoom ミーティングでのハイフレックス

研究発表

日本人英語学習者の /l/ と /r/ 音知覚における 自動訂正フィードバックの効果

小澤 史緒

本研究では、日本人英語学習者にとって知覚的に弁別が困難とされる /l/ と /r/ に着目し、知覚トレーニングにおけるフィードバックと発音活動の効果を検証した。先行研究によれば、発音練習は知覚向上に寄与すること（Hirata, 2004）、さらにその効果はフィードバックの質に左右されると指摘されている（Saito & Lyster, 2012）。本研究の参加者は日本人英語学習者 66 名であり、録音された /l/ と /r/ を含むミニマルペアの音声を聞き、知覚した語を選択する課題をコンピュータ上で行うよう求められた。参加者は 2 条件に割り当てられ、30 名の群と 36 名の群に分けられた。30 名の群は誤答時に口腔図および日本語説明が提示され、その後発音課題が提示された。一方、36 名の群は音声提示と発話のみが求められた。両条件のトレーニングによる学習効果は事前・事後に実施した単語識別テストにより評価した。その結果、フィードバックの有無による主効果は認められなかった。しかし、セッション（事前・事後）と音素（/l/ と /r/）の交互作用は統計的に有意差がみられた。とくに /l/ の正答率がトレーニング後に低下したことから、本トレーニングが /l/ と /r/ の弁別方略に影響を与え、音韻境界が再編されつつある学習者の発達的な状態を反映している可能性が示唆された。

（成城大学大学院生）

研究発表

特別支援教育における外国語活動の意義と継続実践 ー 国内外の制度的動向とともに ー

山崎 千春

本研究は、特別支援教育における外国語活動の意義を明らかにし、継続的な実践から得られた知見を整理することを目的とする。国内では学習指導要領の改訂や合理的配慮の推進

など、学ぶ権利を保障する制度的整備が進み、海外においても、インクルーシブ教育の理念や個別支援計画を基盤とした学習保障の枠組みが共有されている。こうした国内外の動向は、児童生徒が安心して参加できる学習環境の構築が特別支援教育において一層重要であることを示している。

本研究では、数年間にわたり実施してきた特別支援教育の場での外国語活動の実践を振り返り、児童生徒の反応や活動の広がり、関わり方の変化について記述的に整理した。あわせて、実践を継続する中で見えてきた学びの様子や、参加を促すための環境構成の工夫について考察した。

その結果、外国語活動を継続して行うことは、児童生徒が自分のペースに関わり、見通しと安心感をもって参加できる環境づくりに寄与する可能性が示唆された。また、活動構成や教材提示を工夫することで、多様な特性をもつ児童生徒が参加しやすい学習環境を形成できることも確認された。外国語活動は、言語学習の機会としてのみならず、児童生徒の関心や主体性を引き出す場としても機能し得ることが明らかとなった。

本研究は、特別支援教育の中で外国語活動をいかに位置づけ、どのように支えていくかを考えるための一つの視点を提示するものである。

(神奈川大学非常勤講師)

講演

21 世紀のアメリカン・ヒーロー像を探る

坪野 圭介

アメリカ合衆国はヒーローを求め続けている。理念から生まれた実験国家ゆえに、あるいは多様な出自の人々が織りなす移民国家であるゆえに、歴史上アメリカは「アメリカ人とは何か」という問いをくり返してきた。理想のアメリカ人像を追求することは、いつしかアメリカン・ドリームと呼ばれ、その理想を体現した人物は「ヒーロー」として崇拝の対象となった。大統領、科学者、資本家、興行主、冒険家、アスリート、映画スターなど実在の重要人物から、文学や漫画・映画のなかで活躍する架空の登場人物まで、無数の「ヒーロー」たちが、今にいたるまでアメリカ文化の重要なアイコンとして愛されている。本発表では、21 世紀現在のアメリカにおいて、どのようなヒーロー像が求められているのかを考えてみたい。

アメリカに限らず、どの国家・社会の歴史にも多くの英雄たちが存在している。それでもアメリカがとりわけ強く「ヒーロー」を希求しているといえる理由は、これまでに、不安定な社会、希薄化した信仰、神話の不在といった、アメリカが抱える「欠落」によって説明されてきた。その欠落を埋めて安定したアメリカ人像を打ち立てる必要性が、アメリ

カン・ヒーローへの欲望につながる。そうであれば、アメリカ社会の分断が決定的に広がったきわめて不安定な現在こそ、これまで以上に「ヒーロー」が求められる時代であるかもしれない。2010年代以降のハリウッド映画がスーパーヒーロー映画を中心に展開してきた事実も、ヒーロー熱の高まりを物語っているだろう。

一方、現在のドナルド・トランプ政権は、アメリカの基盤ともいえる移民政策を大きく転換させ、アメリカン・ドリームを変質させていることにも目を向ける必要がある。メキシコ国境の壁の建設や、ICEによる強硬な不法移民取り締まり、ビザ発給の厳格化など、アメリカに夢を抱いてきた移民にとって、悪夢といえるような状況が訪れた。こうした社会の変化は、必然的にアメリカン・ドリームの体現者たる「ヒーロー」のありかたにも影響するはずである。ただし、これまでアメリカを支えてきた多くの移民たちにとってアンチ・ヒーローであるドナルド・トランプ大統領は、**Make America Great Again** というスローガンを熱烈に支持するアメリカ人にとっては、まさしく偉大な「ヒーロー」の座に君臨している。アメリカン・ヒーロー像とはそのように、決して固定的なものではなく、誰がどのような理想を抱くかにもとづいて変化し、作られたり壊されたりする、ポリティカルなイメージに他ならない。

本発表では、アメリカン・ヒーロー像の揺れ動きを、1930年代に誕生して2025年に最新作の映画が公開されたスーパーマンという架空のヒーローを定点観測の事例に用いながら議論する。漫画や映画を通じて国民的人気を博してきたスーパーマンが、時代の変化に応じてその性質や役割を巧みに変化させる過程を追いつつ、自らをアメリカン・ヒーローとして演出するトランプ大統領の政策や言説と並置することで、フィクション／現実を横断するふたりの偶像が、アメリカの理想のありかをどのように指し示しているかを考察したい。

(成城大学准教授)

第 91 回定例研究会報告

2026 年 3 月 14 日（土）14:30 – 17:00

オンライン（Zoom）

講 演

戯曲翻訳作業を通じて知るイギリス文化

小田島 恒志

私は 1990 年ごろから現代英米戯曲を日本で上演するために翻訳する作業に携わってきました。研究のための、あるいは読むための翻訳と違って、舞台上演のための翻訳は、大半が日本語話者の観客を相手に、耳で聞いて分かる日本語に訳さなければなりません。注釈をつけるわけにもいかなくなります。その際、悩ましいのが、原文（原セリフ）が英米の文化を反映している場合です。ただ、字面を訳しただけでは、原セリフが現地の観客に与える印象／意味／効果と日本の観客に与える印象／意味／効果がかげ離れたものになってしまう。

今回は、そのような事例として、イギリス現代劇の『ハリー・ポッターと呪いの子』（Harry Potter and the Cursed Child, 2016）と、『アルカディア』（Arcadia, 1993）を取り上げて、具体的に、どんな文化的背景が読み取れるか、それをどのような台詞に訳したか、説明します。

前者は、作者 J. K. ローリング氏から、Voldemort という人物（？）名を、小説や映画でお馴染みになった「ヴォルデモート」という発音から「ヴォルデモー」という発音に変えてほしい、という注文があったことと、それに伴う文化的含意について話します。また、本作は原作小説のシリーズが「児童文学」というジャンルにくくられるために、「子供向き」の言葉に置き換えるべきだと思われがちですが、テキストを見れば、随所にシェイクスピアの影響が見られる、紛れもない「イギリス演劇」だということが分かります。そのつもりで翻訳に臨んだことも言い添えておきます。

後者は、「演劇は最も知的な娯楽である」との発言もある作者 T. ストッパード氏が昨年亡くなったことへの追悼の思いを込めて、本作の冒頭場面の台詞のやり取りが、どのように知的であるか、説明します。本作品は 1993 年にナショナル・シアターで初演された際、劇場の売店での「上演戯曲販売部数記録」を塗り替えたほど、観客の知的好奇心を煽った台詞の連続でした。本音を言うと、これまで 130 本以上の上演台本翻訳に携わってきた私の一番のお気に入りの戯曲です。その理由の片鱗だけでもお伝えできれば幸いです。

（早稲田大学教授）

講 演**学会、内閣、文部科学省、都県教委の
英語教育政策改訂に携わって 50 年****小池 生夫**

1. JACET 入会の切っ掛け。太田朗先生、芹沢栄先生、星山三郎先生と一枚の案内のビラ。
2. 1967. 第一回 JACET サマーセミナーに参加。7 月 17 日から 8 月 4 日まで。グループリーダー (世話係)。JACET に入会する。
3. 1969. JACET に研究企画委員会という若手の実務グループを立ち上げる。代表幹事 (委員長) に推薦される。慶應義塾大学経済学部専任講師から助教授に (1972) JACET の若手のリーダー。支部づくり、大会運営補助などの実務をおこなう。
4. 1972. 米国 Georgetown University SLL 留学。Lado 博士の招聘による。妻、3 人の子供を帯同。
5. 1975. PhD Candidate.
6. 1979. 第一回 JACET 賞受賞 (Teaching in English) すべて英語で書いた。80 名余の執筆者による大著。4 名共同の編集。
7. 1980. PhD in Linguistics. 応用言語学主専攻、言語学及び英語学副専攻。USLA 研究ではじめて。
1981 慶應義塾大学教授に。
8. 1982. 6. 応用言語学研究会 (JAAL in JACET) 創設。AILA 本部からの勧誘にもかかわらず、辞退。
1989. 昭和から平成へ。
9. 1984. AILA 国際理事会総会に出席、JACET 加盟演説。満場一致、正式加盟国際関係の仕事が一挙に増える。理事会出席 (毎年 1 回)。
10. 1985. JACET 実態報告書完成。臨教審のヒアリングに出席。国際社会に対応する英語教育の改革と小学校英語教育導入を主張。
11. 1986. 臨教審に外国語教育振興に関する要望書を臨教審に提出。大学設置審議会委員。
9 月。学習指導要領作成調査研究協力者会議高校外国語部会主査。「コミュニケーション」のカタカナ語を規定に初めて導入 (文部科学省)。
文部省政策。臨教審第 2 次答申において教養中心からコミュニケーション力養成中心へ (東京サミット開催、学習開始年齢については先送り)。AILA 理事会で小池生夫副会長に選出される。
12. 1986 臨教審に外国語教育振興に関する第 2 次答申。英語教育政策の転換。教養中心からコミュニケーション力養成中心へ。学習開始年齢については討議先送り。
13. 1989, 10 月。第 6 回高校外国語学習指導要領外国語編作成会議主査。

大学審議会教育部会のヒアリングで大学外国語（英語）教育改革の方策に関する意見を提言。

- 1 4. 1991. 6～8. 英国 Cambridge 大学応用言語学研究所に Visiting Fellow で研究出張。JACET 第 4 代会長。
2001 年 9 月まで 10 年間。その後特別顧問を経て名誉会長に（2012, 9～現在）
- 1 5. 1991. 市河三喜、小川芳男をへて、第 3 回「外国語教育の改善に伴う調査研究協力者会議」座長。英語教育の基本政策策定。同年 8 月
- 1 6. 1992. 文科省、小学校英語実験開始に際して指導講師に。大阪市教育委員会真田山小、味原小、高津中の英語教育の指導をおこなう。1 年間。毎月 1 回訪問を繰り返す。2 年目には鹿児島大学教育学部付属小学校、その次は千葉県鵜金小学校で指導助言をおこなう。
- 1 7. 1993.4. 第 3 回外国語教育の改善にともなう調査研究協力者会議答申。
38 項目の地の外国語教育改善政策の基本。小学校英語実験認められる。
座長、小池生夫。規模や内容が中教審並みの答申といわれた。
AILA 第 12 回世界大会組織委員会委員長。AILA 理事に。小池生夫。
- 1 8. 1994. 文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員、文学部門主査、
- 1 9. 1995. 国立高専教員審査および教員資格認定協力者に。
朝日新聞「論点」に「英語教育、小学校でも」掲載。
- 2 0. 1996. 慶應義塾大学教授選定年制により定年 2 年前に退職。名誉教授。
明海大学外国語学部教授、大学院設置準備委員会委員長。
- 2 1. 1997. 東京都教育委員会「外国語教育改善懇談会」座長。都立高校入試にヒアリングテスト導入へ。
- 2 2. 1998. 明海大学大学院用言語学研究科設置にたずさわり、初代研究科長就任、外国語学部長と兼任。全国唯一の文科省応用言語学研究科、我国ではじめて。質量共に自他共に許す。その後 10 年間に 35 名の PhD を出す。
- 2 3. 2001. JACET 会長として遠山敦子文科大臣に日本の外国語教育改革の要望書を提出する。
9 月 JACET 会長を退任。特別顧問に。
- 2 4. 2002.4. 千葉県教育委員会「英語 SELHI 指導助言委員会委員長。その後、英語教育改善指導委員会委員長。
7 月 遠山大臣主催「英語が使える日本人の育成のための戦略構想」の策定に総務兼発表者として携わる。その後、行動計画発表、実施（2003）。
- 2 5. 2003.3. ASIA TEFL 第一回国際大会。釜山。小池生夫、発起人 3 人の 1 人。韓国、中国、日本の英語教育研究学会会長の間で相談。提案者の Hyo Woong Lee 氏を小池が推薦して初代会長候補に決まった。
- 2 6. 2005. Asia TEFL 第 4 回大会 小池が組織委員会委員長で実施。成功。

- 27. 2008.3. 福田内閣、教育再生懇談会に町村信孝官房長官と公開小池とわが国の英語教育の弱点について論議、会議終了後も1時間以上熱心に論議がつづいた。以降町村信孝官房長官の絶大な信頼を受け、政府の英語教育改革政策が実現することが容易になる。学習指導要領（2008, 1）全面改訂（脱ゆとり改革。小学校英語 2011 年度、中学 2012 年度、高校 2013 年度で、25 年 3 月 8 日 13 年度から英語を教科として導入）。
- 28. 2009.3.自由民主党文部科学部会、文教制度調査会合同会議に招かれ、外国語教育振興法の設立を訴える。文科省、外国語教育推進室設置。
- 29. 2010.7. ELEC 第7代理事長（2014, 6, 19）。11 月.日本英語検定協会英語航育センター常任審議委員。
- 30. 2011.4. 瑞宝中綬章を天皇陛下より賜る。我が国の英語教育政策の改正を実現し改革に努める。
- 31. 2011.7.「文科省、英語力向上のための5つの提言と具体的政策」（当時イギリス、欧州で実効をあげていた CEFR の構想を日本に導入する考えを文科省に推薦。これが CEFR が我が国及びアジアに広く今日導入される切っ掛けとなった。）
- 32. 2012.3. ICU 同窓会から社会貢献大であると認められ、DAY 賞を受ける。
ASIA TEFL から貢献に対して感謝状、終身アドバイザー、JACET から名誉会長、日本英語検定協会から栄誉賞授与。
- 33. 2013.11. ASIA TEFL から終身アドバイザーに。東京都教育委員会教育戦略会議委員に。
- 34. 2017.国際応用言語学会からアジアではじめて名誉会員に選出される。日本で一人、シンガポール大から一人のみ。現在世界中で6人。
- 35. 2021.11. 一般公益財団日本英語検定協会名誉顧問に。
- 36. 2022. 7 月 23 日をもって 90 才。

（慶應義塾大学・明海大学名誉教授）

事務局 だより

1. 事務局メールアドレス変更について

事務局のメールアドレスを変更いたしました。新しいアドレスは

ajelcoffice@gmail.com

です。よろしくお願いいたします。

2. Newsletter 発行の遅延について

2025 年度の Newsletter の発行が遅くなりましたこととお詫び申し上げます。新体制への移行などの関係もあり、学会情報をお知らせすることがすぐにできず、会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。

3. 会費納入・名簿整理について（重要）

会費の納入をお願いいたします。本学会では会費納入は銀行振り込みに限らせていただいております。なお、お振込みにかかる手数料は会員のご負担になりますので、ご了承ください。お振込み時に発行される「控」が領収書に代わるものとなりますので、改めて領収書は発行いたしません。研究費処理などで問題が生じた場合には、本学会事務局にご相談ください（事務局：和洋女子大学 拝田研究室, ajelcoffice@gmail.com）。

書面での領収書が必要な場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。

一般会員 4,000 円

学生会員 1,000 円（院生を含む）

賛助会員 8,000 円

銀行口座：三菱 UFJ 銀行

国分寺支店 普通 0132870

口座名：日英言語文化学会事務局

4. 名簿記載事項について（重要）

名簿記載事項に変更がある方は、事務局までお知らせください。特にメールアドレスを変更されている場合は、すぐに事務局（ajelcoffice@gmail.com）までお知らせください。事務局から案内や Newsletter をお送りするたびに、宛先不明で戻ってきってしまうメールが複数ございます。ご本人からお申し出がない限り、新しいアドレスにお送りすることができません。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

5. 第 92 回定例研究会

第 92 回定例研究会を次の要領で開催いたします。

日時：2026 年 9 月 12 日（土）14:30-17:40

場所：「アイリンク・ルーム 1・2」JR 総武線市川駅隣接のザ・タワーズ・イースト 3 階

「市川駅行政サービスセンター」内

内容：講演 荻原 寛（長崎県立大学名誉教授）
「ヴィヴァルディの音楽の魅力とその数奇な生涯」

企画「自著を語る」池田 和夫（元千葉県県立高等学校教諭）
『語根で覚えるコンパスローズ英単語』（研究社）

研究発表 近藤 公哉（埼玉県立坂戸西高等学校教諭）
「高校生が作成した英語のプロンプトの傾向を探る一画像生成 AI を活用した
授業実践の場合」

*詳細は改めてご連絡いたします。

6. 定例研究会での発表者・講演者募集

定例研究会は、3月、9月、12月と、年3回の実施で、発表者および講演者を随時募集しております。自薦他薦は問いませんので、事務局までお知らせください。なお、発表は会員の方に限ります。

編集後記

2025年度より年1回の発行といたしましたが、諸事情により、ようやく皆様のお手元にお届けすることができました。遅れましたことをお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。年次大会と3回の定例研究会報告としております。なお、要旨については、発表、講演前にいただいているものを転載しております。

どうぞ皆様、ご自愛ください。（C.B.）

編集後記_追記

本来であれば数ヶ月前には送られているべき Newsletter No.69 が、やっとお届けできました。すでにコロナ禍は理由にできない中、諸事情のため、このような事態になりました。本当に申し訳ありません。会員の皆様におかれましては、何卒ご賢察とご海容をお願い申し上げます。Newsletter No.70 に関しましては、2026年6月の年次大会と、9月、12月、そして2027年3月の定例研究会のご報告を盛り込み、2027年3月にお届けできるように鋭意努力いたします。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。（K.H.）

AJELC Newsletter 第69号

2026年3月31日発行

発行人：小川貴宏・拝田清

編集：日英言語文化学会（AJELC）事務局

発行所：日英言語文化学会

（〒272-8533 千葉県市川市国府台2-3-1 和洋女子大学 拝田清研究室内）

E-mail: ajelcoffice@gmail.com